



安心の高校進学と更なる 離島振興をめざして

～沖縄県立離島児童生徒支援センター～

平成28年1月4日、那覇市東町に「沖縄県立離島児童生徒支援センター」(愛称：群星寮)が開所し、同1月8日に知事をはじめとする関係者の出席のもと開所式典が行われました。高校のない離島に住む生徒の皆さんにとって、高校に進学することは島から旅立つこと。今回は、小規模離島に住む生徒の高校進学を支援するための総合寄宿舍と、離島振興のための交流施設に関する県の取組みを紹介します。



「様々な夢や希望を持って離島から集まった生徒一人ひとりが、輝く星として一緒に成長できるように」との願いを込めて、愛称は群星寮と名づけられました。(渡嘉敷中学校生徒会からの応募) また、看板文字は、伊江村書道クラブの中学生の皆さんが制作しました。



平成28年1月8日、開所式典が行われました。

沖縄県立離島児童生徒支援センターとは？

皆さんは、中学校はあるのに高校がない、といった離島(沖縄本島や高校のある離島と橋梁などで繋がっていない離島に限りません。)が沖縄県内にいくつ存在するかご存知でしょうか。答えは、全部で23離島。これらの23の離島に住む生徒たちにとって、高校は「すぐそこ」にある身近な存在ではありません。15歳で生まれ育った島を離れ、新たな生活を始めてやっと進学できるものなのです。

離島児童生徒支援センターは、こうした高校のない離島の生徒たちが高校に進学する際に、一人でアパートを借りたり、保護者も一緒に島を離れたりする必要があるように整備された、高校生専用の総合寄宿舍です。県立高校のみならず、私立高校も含め、沖縄本島中南部の様々な高校に通うことができます。また、施設内には、100名程度が利用できる「交流室」が整備されています。離島の振興につながる活動であれば、どなたでも交流室を利用することができます。県内に数多く存在する離島同士の交流、離島と沖縄本島の交流など、様々なシーンでの交流拠点として活用されることが期待されます。

詳しく知りたい離島児童生徒支援センター

寄宿舍と交流機能を併せ持つ施設「離島児童生徒支援センター」の詳細は、一体どのようなものなのでしょうか。ここからは、問・答形式で皆さんの疑問にお答えします！

1. 寄宿舍の詳細編

Q 場所はどこにあるの？
A 那覇市東町にあります。モノレールやバスを利用して、中南部の30程度の高校に通えます。

Q 寮に入ると、毎月どれくらい費用が生じるの？

A 施設の使用料として、月1万8千7百円、朝夕の給食代として月1万8千円、合計月3万6千7百円の負担となります。また、備品購入のための積立として、入寮時のみ1万円(高校2年から入寮する場合は6千円、高校3年生から入寮する場合は3千円)を徴収します。

Q 規模はどれくらい？

A 1学年の定員を40名とし、合計で120名を収容できます。部屋はすべて個室です。

Q 誰でも入寮することができるの？

A 原則としては、高校のない離島の中学校を卒業し、なおかつ、寮が併設されていない高校に通う生徒のみが対象です。

となります。ただし、部屋に空きがある場合に限り、これらの条件を満たしていなくても入寮することが可能です。

Q 入寮の申し込み状況はどうか？

A 平成28年度の新高校1年生については、定員を超える申し込みがあり、平成28年1月時点で10名のキャンセル待ちの生徒が生じています。新高校2年生と3年生についてはまだ空きがありますので、高校のある離島や本島出身の生徒にも対象を広げて随時入寮を受け付けております。

Q 食事や管理人は？

A 食事は、土日祝日を含めて朝夕2食を提供します。また、寄宿舍には教員免許を持った専属の職員が配置されており、職員が不在になる時間帯はありません。



朝食例
夕食例
高校生の必要カロリーと栄養バランスが考えられた給食

Q 部屋にはどのようなものが用意されているの？



シャワー室は、1つずつ仕切りのあるブースです。(大浴場はありません) 各フロアには、共用の洗濯機と乾燥機があります。

寮室は約5畳の広さで、全室個室です。

広々とした食堂と交流室

交流室では、離島振興のための様々な交流活動が想定されます。

2. 交流室の詳細編

Q 各部屋には、ベッド、机、タンス、エアコン、電気スタンドがあらかじめ用意されています。また、共用の家電として、パソコン、洗濯機、乾燥機、冷蔵庫、テレビ、アイロン、ドライヤーなどを用意しています。寝具類やカーテン、アメニティグッズ、洗剤、室内履きなどは、ご自身で持ち込んでいただきます。

Q 門限はあるの？

A 門限は、夜の9時としています。生徒の安全のためにも、必ず守っていただきます。その他、起床や就寝、清掃や学習時間は寮則で定められています。

Q 規模はどれくらい？

A 30名程度を収容できる部屋が3室あります。3室の仕切りを取り払うと、100名程度が利用可能です。テーブル、椅子のほか、プロジェクトスペース(スクリーンを含みます。)を2台用意しており、防音対策もされていますので、会議や研修、楽器演奏などの音の出る活動にも利用できます。

Q どのような活動に利用できるの？

A 離島の振興に資する活動であれば、寮生以外でも利用可能です。小中高校生を対象とした離島関係のワークショップや、伝統芸能の披露



展示・伝授、教育課程に基づく活動(本島での各種大会や離島が関係する社会見学の際の学習スペースなど)への利用が想定されます。

Q 利用時間は？

A 土日祝日を含めて、朝の9時から夜の8時45分まで利用できます。

これまで、高校に併設した寮はありませんでしたが、このように高校から完全に独立し、寮のみならず交流機能を備えた施設は県内初となります。今後も、高校のない離島の生徒の皆さんが安心して高校に進学できる施設となるよう、また、多くの離島との活発な交流が促進されるよう、運営をしていきます。